

埋葬施設における赤色顔料使用に関する研究 —岡山県域の弥生時代後期から古墳時代前期を対象として—

三阪一徳*・杉 佳樹*

* 岡山理科大学

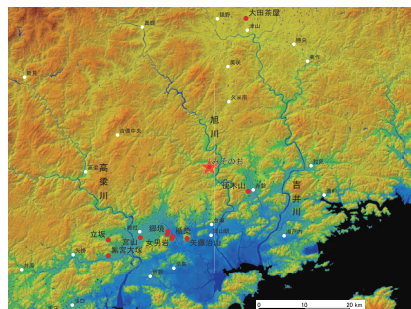
目的

岡山県域の弥生時代後期から古墳時代前期の墓の埋葬施設における赤色顔料の利用方法に注目し、その時期変化や地域差に関する分析を現在進めている。本分析を通じ、当該期の社会の階層化や葬送儀礼における赤色顔料が担った役割を解明することを研究目的とする。

資料と方法

今回は旭川右岸に位置する岡山市みそのお遺跡（岡山県古代吉備文化財センター編 1993、図1）を対象とした分析結果を報告する。本遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期にいたる継続的な造墓が認められ、保存状態が良好な墓墳が約400基検出されている（図3-1）。

本発表では副葬品（赤色顔料・鉄器類・玉類）の有無、墓墳上端のサイズ¹⁾に着目し、それらの時期変化について検討をおこなった結果を報告する。なお、時間軸に関しては河合忍（2015・2019・2022）の土器編年案を参照した（表1）。



* 地理院タイル（デジタル標高地形図・技術資料 D1-No. 975）を加工して作成

図1 みそのお遺跡の位置

表1 時期区分

		河合2015・2019・2021		高橋1980a～d・ 1983・1986・ 1988～1991	正岡 1972(高橋1982)		
弥生時代	弥生時代	後期	前期	後期I-1	VII-a	上東	
				後期I-2	VII-b		
				後期I-3	VII-c		
				後期II-1	VII-d		
				後期II-2	VII-e		
				後期III-1	VII-f		
				後期III-2	VII-g		
				後期III-3	VII-h		
				終末期1	IX-a		酒津
				終末期2	IX-b		
				終末期3	IX-c		
				終末期4	IX-d		
				終末期5	IX-e		
				終末期6	IX-f		
終末期7	IX-g						
古墳時代	古墳時代	前期	初期	初期1	X-a	雄町	
				初期2	X-b		
				初期3	X-c		
				中期1	X-d		
				中期2	X-e		
				後葉1	XI-a		
				後葉2	XI-b		
				後葉3	XI-c		

分析 ②墓墳サイズと副葬品（赤色顔料・鉄器類・玉類）

墓墳のサイズに関しては、弥生時代後期は長さ 300cm・幅 150cm を超えるものはほぼみられないのに対し（図4-2）、弥生時代終末期～古墳時代前期には長さ 300cm・幅 150cm を上回る墓墳が出現している（図4-3・4）。

墓墳サイズと副葬品の関係を見ると、弥生時代後期は小型から大型の墓墳に副葬品がみられるのに対し（図4-2）、弥生時代終末期～古墳時代前期はおよそ長さ 250cm 以上の墓墳に副葬品が伴っている（図4-3・4）。

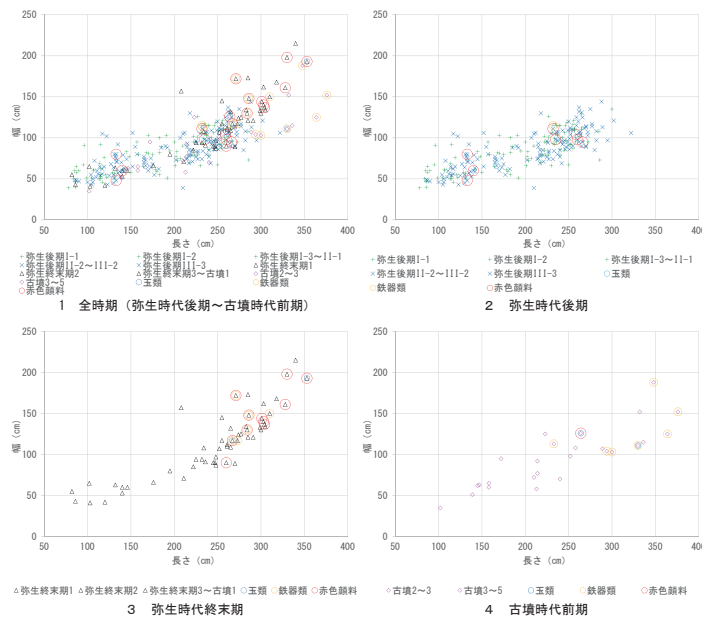


図4 墓墳サイズと副葬品（赤色顔料・鉄器類・玉類）

分析 ①副葬品（赤色顔料・鉄器類・玉類）の時期変化

副葬品（赤色顔料・鉄器類・玉類）の時期変化をみた場合、弥生時代後期前葉～中葉は副葬品をもつ墓墳の頻度が低いのに対し、弥生時代後期後葉以降、古墳時代前期まで副葬品をもつ墓墳の頻度が高い傾向がみられる（図2）。

また、弥生時代終末期～古墳時代前期には、複数種の副葬品をもつ墓墳がみられる（図2）。なお、弥生時代終末期には赤色顔料・鉄器類・玉類という3種の副葬品もつ墓墳が1例存在する（図3-4）。

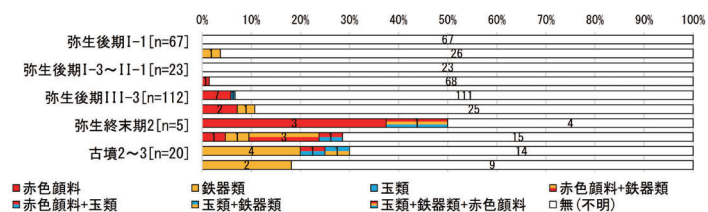


図2 副葬品（赤色顔料・鉄器類・玉類）の時期変化

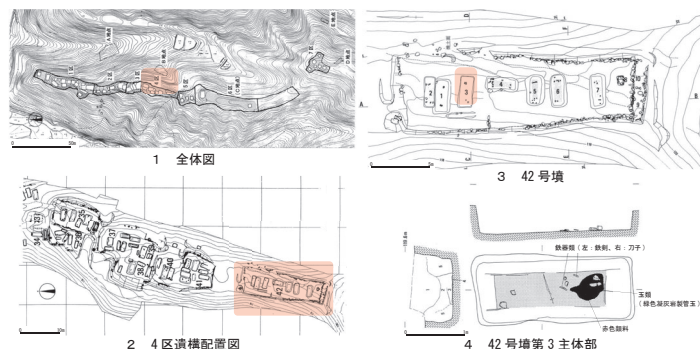


図3 みそのお遺跡4区42号墳第3主体部

結果と展望

以上の分析結果をまとめるとつぎの通りである。みそのお遺跡では、①弥生時代後期後葉以降に副葬品（赤色顔料・鉄器類・玉類）をもつ墓墳の頻度が増加する。②弥生時代終末期以降に大型の墓墳（長さ 300cm・幅 150cm 以上）が出現する。③弥生時代終末期以降に大型の墓墳（長さ約 250cm 以上）に副葬品が集中する傾向がみられる。④弥生時代終末期以降、複数種の副葬品をもつ墓墳が出現する。

以上より、少なくとも大規模な墳丘をもたないみそのお遺跡の墓群では、弥生時代後期後葉から終末期にかけ、副葬品と墓墳サイズにおいて変化が認められるといえる。

今後、岡山県域の弥生時代後期から古墳時代前期における赤色顔料の利用について、他の遺跡に関しても検討を進めていく。また、今回提示できなかった他の要素（墳丘・墓墳・棺・槨の種類・規模、副葬品の種類と器種、赤色顔料の種類・分布パターン・量など）についても分析を進めていきたい。

【註】

- 1) 今回は墓墳上端のサイズを分析対象とした。当然ながら、検出時の墓墳上端のサイズは、後世の削平の影響を受け、造墓当時の上端のサイズとは異なっている可能性がある。そのため、今後、墓墳底のサイズも分析対象に加え、上端サイズとの相関などについて検討をおこないたい。
- 2) 本ポスターには『研究集會資料集』の原稿提出以降に分析を進めた結果を掲載した。そのため、『研究集會資料集』に掲載したデータや解釈を追加・修正した部分がある点、ご容赦いただきたい。

【主要参考文献】

- 岡山県古代吉備文化財センター編 1993 『みそのお遺跡—県営御津工団地造成工事に伴う発掘調査—』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 87、岡山県教育委員会
- 河合忍 2015 「中国・四国」佐藤由紀男編『弥生土器』ニューサイエンス社、160-208 頁
- 河合忍 2019 「備中南部における古墳時代前期から中期の土器編年」渡邊恵里子・園奈歩編『神明遺跡 刑部遺跡—般国道 180 号（総社・一宮バイパス）改築工事に伴う発掘調査 3—』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 249、岡山県教育委員会、975-988 頁
- 河合忍 2021 「吉備南部の精製器種と布留式土器との関係について」『古墳出現期土器研究』8、3-23 頁
- 国土地理院「デジタル標高地形図「中国」」https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/digital-elevation-map_chugoku.html (2024.4.10 閲覧)
- 高橋護 1983 「山陽」佐原真編『弥生土器 I』ニューサイエンス社、135-200 頁
- 高橋護 1986 「上東式土器の編年細分基準」『岡山県立博物館研究報告』7、1-27 頁
- 高橋護 1988 「弥生時代終末期の土器編年」『岡山県立博物館研究報告』9、1-33 頁
- 橋本治 1993 「まとめ」岡山県古代吉備文化財センター編『みそのお遺跡—県営御津工団地造成工事に伴う発掘調査—』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 87、岡山県教育委員会、331-352 頁
- 正岡睦夫 1972 「弥生式土器、土師器」『山陽新幹線建設に伴う調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 1、岡山県教育委員会、110-113 頁